



保戸島は、津久見市四浦半島の先端、豊後水道に浮かぶ周囲4kmの風光明媚な島です。明治中頃に始まったマグロ漁業は、規模を縮小しながらも現在も続いており、日本各地でマグロを水揚げしています。平地が少ない島では海岸から山への傾斜面に3、4階建ての住宅がひしめき合い独特の景観をつくっており、平成18年には「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」にも選出されています。

懇談では、島の現状や課題についてお話を伺いました。年々、高齢者が増加し、体調を崩して救急搬送される方が増えるなか、消防団員を中心とした「救急搬送おたすけ隊」を結成して島内での搬送を担うなど、これまで共助の取組を推進してこられました。しかし、高齢化率が77.2%（令和6年4月1日現在）となるなど急速な少子高齢化が進み、いよいよ限界となってきたそうです。また、荒天時において船が欠航した場合における救急体制の構築、津久見港と保戸島を結ぶ航路の維持などについて、ご意見やご要望をお聞きしました。さらに、以前から議論を重ねてきた、最寄りの陸地である四浦半島との間に橋を架けてほしいというご要望も伺いました。

様々な課題がありますが、今後も議論を続けていただき、県としてもできるところから対応していきたいとお伝えしました。



関連する県の施策

☆事業名：地域活力づくり総合補助金

事業概要：地域活力の維持・発展を図るため、地域住民等が行う魅力ある地域づくりや特色ある取組を支援

予算額：5億円

☆事業名：離島航路対策費

事業概要：津久見～保戸島航路離島航路の維持・確保

予算額：1億400万円

(県費4,800万円)

国費3,800万円

市費1,800万円)

